

第1回 仙台市交流人口拡大財源検討会議 会議資料

令和2年1月17日(金)

1

目 次

1. 本検討会議設置に至る経過
2. 本検討会議の論点
3. 仙台市の現状
4. 現行施策と今後の取り組み
5. 仙台市の財政状況
6. 財源確保の事例

2

1. 本検討会議の設置に至る経過

3

1. 本検討会議の設置に至る経過

(1) 宮城県・仙台市における検討状況について

年	月日	宮城県の状況	仙台市の状況
H30	10/31	第1回宮城県観光振興財源検討会議	
H31/R1	3月		「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略」策定
	11/20	第7回検討会議において観光振興財源として宿泊税の制度設計が初めて示された	
	11/29	第8回検討会議において宿泊税導入を適当とするとりまとめ案が示された	
	12/6	宮城県観光振興財源検討会議報告書(案)に対する意見募集(1月6日まで)	
	12/17		仙台市議会において宿泊税導入の早急な検討を求める旨の決議が可決
R2	1/10	宮城県観光振興財源検討会議答申	
	1/17		第1回仙台市交流人口拡大財源検討会議開催

本市の持続的な発展のため、交流人口拡大による地域経済の活性化が必要であり、そのための財源確保は極めて重要な課題であるという認識のもと、上記の状況も踏まえ、本検討会議の設置に至った。

4

2. 本検討会議の論点

5

2. 本検討会議の論点

主な論点	検討すべき内容
①交流人口拡大に向けた施策と事業規模について	仙台市の現状と課題、現行施策と今後の取り組みを踏まえて、今後本市が取り組むべき施策とその事業規模を検討する
②新たな財源のあり方について	宿泊税を含む、様々な財源確保の手段・制度とその用途について、幅広く検討する

6

3. 仙台市の現状

7

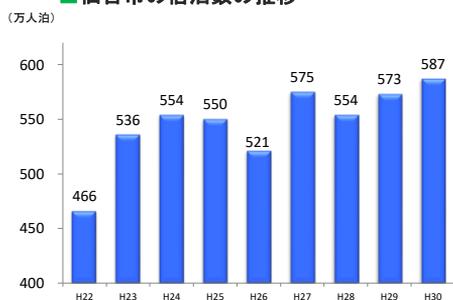
3. 仙台市の現状

(1) 宿泊者数および外国人宿泊者数の推移

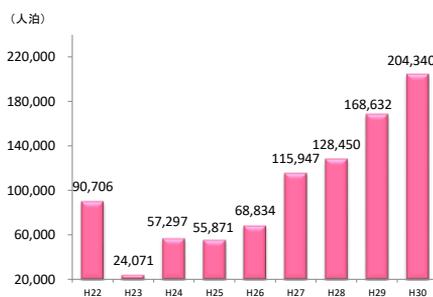
現 状

- 仙台市の宿泊者数は、震災(平成23年)以降、復興関係の需要により増加していたが平成26年に521万人に低下。近年は微増にとどまっている
- 仙台市の外国人宿泊者数は、震災(平成23年)の年に24,071人まで低下したものの平成27年には過去最高を記録し、その後も順調に推移している。

■ 仙台市の宿泊数の推移



■ 仙台市の外国人宿泊数の推移



出典: 仙台市観光統計基礎データ

8

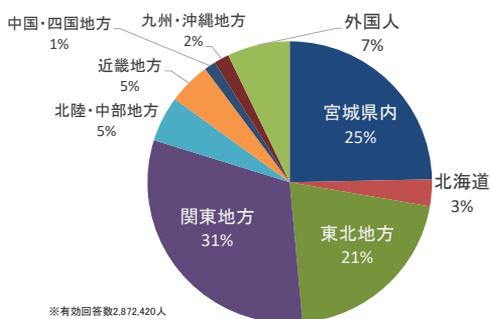
3. 仙台市の現状

(2) 宿泊者数の居住地別内訳

現 状

- 宿泊者数を居住地別に見ると、関東からの宿泊者が最も多く31%、次いで宮城県内25%、東北地方21%となり、以上3地域で計77%を占める。

■ 居住地別内訳 (H30)



出典: 仙台市観光統計基礎データ

9

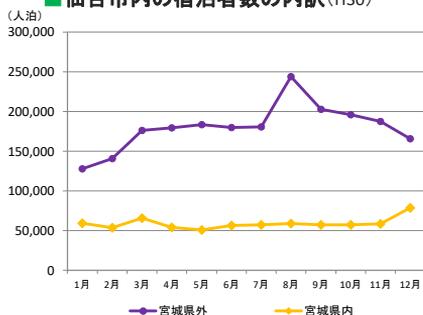
3. 仙台市の現状

(3) 宿泊者数の月別内訳

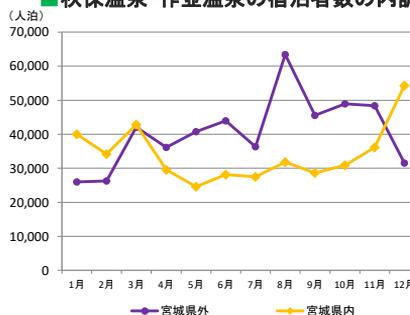
現 状

- 冬季は県外客の宿泊者数が大幅に減少し、県内客の宿泊者数が増加する傾向がある。
- 秋保温泉・作並温泉では、その傾向が強い。
- 夏季は、県外客が多く訪れている。

■ 仙台市内の宿泊者数の内訳 (H30)



■ 秋保温泉・作並温泉の宿泊者数の内訳 (H30)



出典: 仙台市観光統計基礎データ

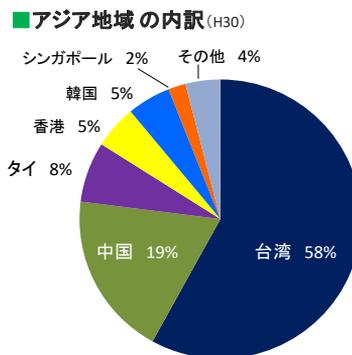
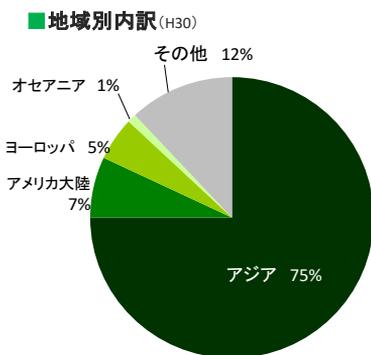
10

3. 仙台市の現状

(4) 外国人宿泊者数の地域別内訳

現 状

- 地域別にみると、アジア地域からの宿泊者が75%を占める。
- アジア地域の内訳としては、台湾が58%と半数以上を占め、次いで中国19%、タイ8%となっている。



出典：仙台市観光統計基礎データ

11

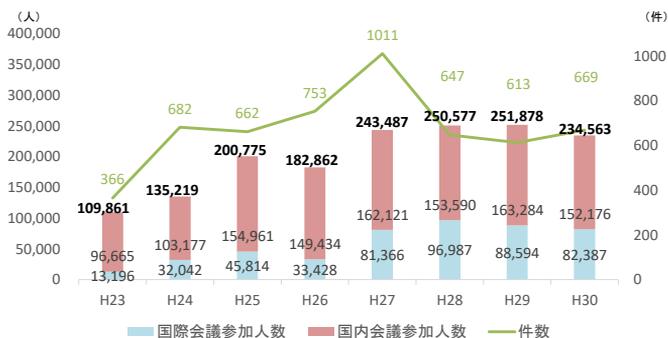
3. 仙台市の現状

(5) コンベンション開催状況(学会・大会等)

現 状

- コンベンション参加人数合計は、平成27年以降20万人以上で推移している。
- 国際会議参加人数は、平成27年以降8万人以上で推移している。

■ コンベンション(学会・大会等)開催件数と参加人数の推移



- 国際会議：2居住国・地域以上(外国人2名以上)の参加がある会議(人数の下限なし)
- 開催件数、参加人数：原則として実績ベース

出典(公財)仙台観光国際協会データをもとに仙台市作成(令和2年1月10日現在) 12

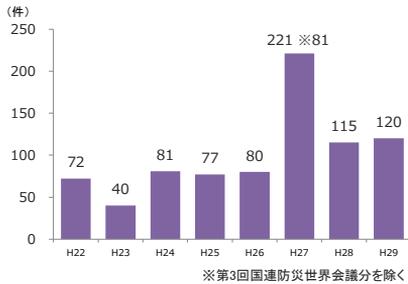
3. 仙台市の現状

(6) 国際会議開催状況

現 状

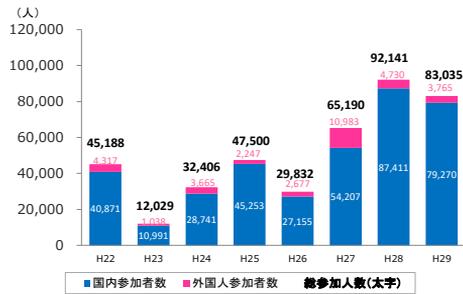
- 平成23年は東日本大震災の影響により件数、人数ともに大きく減少している。
- 平成27年は第3回国連防災世界会議に関連した会議などの開催により、件数は前年と比べ141件増加。外国人も多数参加した。

国際会議開催件数の推移



・ 国際会議: 3居住国・地域以上の参加がある会議(総参加者数50名以上)

国際会議参加人数の推移



出典: 日本政府観光局(JNTO) 国際会議統計

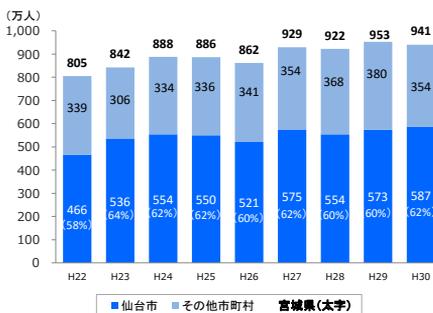
3. 仙台市の現状

(7) 宮城県に対する仙台市の宿泊者数・観光客入込数

現 状

- 宮城県に占める仙台市の宿泊者数は平成23年以降、60%台で推移している。
- 宮城県に占める仙台市の観光客入込数は30%台で推移している。

宮城県の宿泊者数



宮城県の観光客入込数



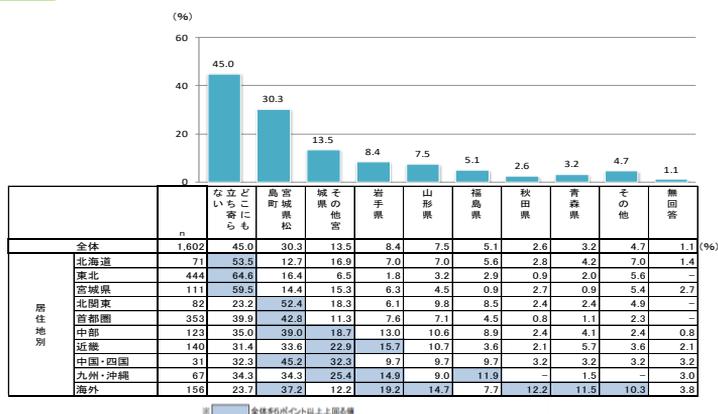
出典: 宮城県観光統計概要

3. 仙台市の現状

(8) 仙台市来訪者の行動特性 (交流地点アンケート結果より)

現 状

- 半数以上が仙台市以外の周辺地域を訪れている。
- 45%はどこにも立ち寄らないが、その約半数は東北と宮城県からの来訪者が占める。



出典：平成27年度観光客動態調査(仙台市) 15

3. 仙台市の現状

(9) 仙台市来訪者の行動特性 (仙台市における訪日外国人アンケート結果より)

現 状

- 仙台市を訪れた外国人の入国・出国空港は、成田空港に次いで仙台空港が多い。
- 仙台の前後に訪れた場所としては、東京が最も多いが、東北各地も上位にある。

■ 入国・出国空港の関係

(n=1242)

入国	出国	新千歳空港	仙台空港	成田空港	羽田空港	中部国際空港	関西国際空港	福岡空港	その他	無回答
新千歳空港	5	4	10	4	-	1	-	2	-	-
仙台空港	0.4	0.3	0.8	0.3	-	0.1	-	0.2	-	-
成田空港	2	262	17	3	-	2	2	4	12	-
羽田空港	0.2	21.1	1.4	0.2	-	0.2	0.2	0.3	1.0	-
中部国際空港	7	34	391	47	1	8	-	4	33	-
関西国際空港	0.6	2.7	31.5	3.8	0.1	0.6	-	0.3	2.7	-
福岡空港	3	11	47	115	2	8	-	1	15	-
その他	0.2	0.9	3.8	9.3	0.2	0.6	-	0.1	1.2	-
無回答	-	1	4	-	6	1	-	-	1	-
	-	0.1	0.3	-	0.5	0.1	-	-	0.1	-
新千歳空港	-	16	15	8	-	21	-	-	-	4
仙台空港	-	1.3	1.2	0.6	-	1.7	-	-	-	0.3
成田空港	1	1	3	2	-	-	-	3	-	-
羽田空港	0.1	0.1	0.2	0.2	-	-	-	0.2	-	-
中部国際空港	2	18	1	1	-	2	-	21	3	-
関西国際空港	0.2	1.4	0.1	0.1	-	0.2	-	1.7	0.2	-
福岡空港	-	8	7	3	-	1	-	1	30	-
その他	-	0.6	0.6	0.2	-	-	-	0.1	0.1	2.4

■ 仙台の前後に訪れた・訪れる場所

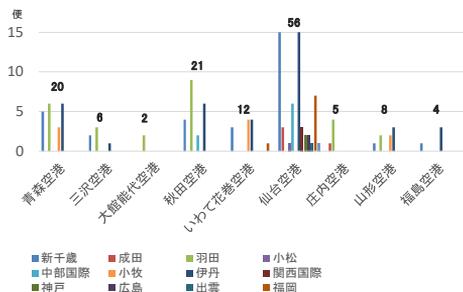
順位	調査数	(n=1,242)
1	東京	60.5%
2	京都	22.0%
3	大阪	19.5%
4	北海道	18.9%
5	青森	17.2%
6	岩手	13.8%
7	山形(蔵王以外)	13.4%
8	秋田	11.4%
9	松島	10.4%
10	奈良	8.9%
	未定・なし	14.7%

出典：平成28年度仙台市外国人観光客動態調査報告書 16

3. 仙台市の現状

(10) 東北のゲートウェイ機能を担う仙台市

■ 東北地方の空港の国内線定期便数(日)



■ 東北地方の空港の国際線定期便数(週)

空港名	定期便路線	便数(週)
青森空港	青森-ソウル	3
	青森-台北	5
いわて花巻空港	花巻-台北	2
	花巻-上海	2
仙台空港	仙台-ソウル	7
	仙台-大連	2
	仙台-北京	2
	仙台-上海	2
	仙台-台北	19
	仙台-バンコク	3

出典: 各空港ホームページ等(令和2年1月現在)

■ 東北新幹線の駅別乗車人員(平成30年度、日平均、定期利用者含む)



出典: 東日本旅客鉄道(株)ホームページ

4. 現行施策と今後の取り組み

4. 現行施策と今後の取り組み

(1) 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略の概要



19

4. 現行施策と今後の取り組み

(2) 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略に基づく現行施策一覧①

【総額】 1,349,996千円（再掲除く・64事業）

1 日本一の体験プログラム創出	401,979千円	3 交流人口ビジネス・イノベーション	113,540千円
(1) 体験プログラム創出	42,462千円	(1) 交流人口ビジネス表彰制度	5,723千円
(2) VR等の活用による誘客促進	12,536千円	(2) 西部地区観光地域おこし協力隊	8,038千円
(3) 観光ガイドブックを活用した誘客促進	5,000千円	(3) 体験プログラム創出(再掲)	42,462千円
(4) 仙台七夕まつり協賛会負担金	35,000千円	(4) 秋保ミュージアム環境整備支援	1,395千円
(5) 仙台・青葉まつり開催補助	32,000千円	(5) 新東北みやげコンテスト開催	5,069千円
(6) SENDAI光のページェント開催補助	30,000千円	(6) 起業支援センター	39,385千円
(7) その他まつり等開催支援	22,500千円	(7) プロボノ活用型起業家支援	3,000千円
(8) 伊達武将隊を活用した観光客誘致	32,476千円	(8) 外国人起業人材誘致促進	8,468千円
(9) インバウンド向け観光コンテンツの磨き上げ	20,000千円		
(10) 外国人が好む観光コンテンツを活用した誘客促進	20,000千円	4 ターゲット重視型マーケティング	427,212千円
(11) 仙台文学館常設展示リニューアル	6,000千円	(1) WEBプロモーション強化	14,000千円
(12) せんだい3.11メモリアル交流館運営	75,745千円	(2) 伊達文化交流	9,397千円
(13) 震災遺構の保存・活用	34,645千円	(3) 観光アンバサダーを活用した観光プロモーション媒体制作	1,718千円
(14) 仙台・宮城ミュージアムアライアンス(SMMA)	3,615千円	(4) 仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会負担金	20,000千円
(15) せんだいアート・ノード・プロジェクト	30,000千円	(5) 観光消費額等調査	6,500千円
		(6) 「仙台のタベ」開催	12,966千円
2 宿泊促進・閑散期誘客	172,006千円	(7) その他観光客誘致宣伝	42,446千円
(1) 体験プログラム創出(再掲)	42,462千円	(8) タイや台湾などを対象とした戦略的なプロモーション(再掲)	47,066千円
(2) インバウンド向け観光コンテンツの磨き上げ(再掲)	20,000千円	(9) WEB及びSNS等による誘客促進(再掲)	8,594千円
(3) 外国人が好む観光コンテンツを活用した誘客促進(再掲)	20,000千円	(10) インセンティブツアー等誘致(再掲)	7,280千円
(4) 外国人観光客消費拡大キャンペーン	5,000千円	(11) その他インバウンド推進	33,012千円
(5) タイや台湾などを対象とした戦略的なプロモーション	47,066千円	(12) 誘致インセンティブ	31,500千円
(6) WEB及びSNS等による誘客促進	8,594千円	(13) その他コンベンション誘致	19,043千円
(7) インセンティブツアー等誘致	7,280千円	(14) フィギュアスケートモニュメント増設	29,564千円
(8) 修学旅行誘致等国内プロモーション	4,291千円	(15) 仙台国際ハーフマラソン大会開催	60,450千円
(9) 首都圏プロモーション	5,008千円	(16) 国際スポーツイベント等招致・開催	32,842千円
(10) 企業内会議・研修会等の誘致	8,457千円	(17) 全日本大学女子駅伝大会開催	11,352千円
(11) その他仙台観光魅力創出	3,848千円	(18) スポーツコミッション運営等	9,682千円
		(19) 東北復興をテーマとした舞台芸術事業	6,500千円
		(20) 仙台クラシックフェスティバル開催	23,300千円

20

4. 現行施策と今後の取り組み

(2) 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略に基づく現行施策一覧②

5 ビジターズ・フレンドリー仙台	241,936千円
(1) 西部地区受入環境整備	51,870千円
(2) 市内中心部における受入環境整備	66,354千円
(3) 深沼海水浴場における親水イベント実施	33,047千円
(4) 外国人観光客消費拡大キャンペーン(再掲)	5,000千円
(5) インバウンド受入環境の充実	15,815千円
(6) MICEサポートセンター運営	4,844千円
(7) 仙台国際センター施設整備	65,006千円

6 東北ゲートウェイ推進	186,187千円
(1) 東北絆まつりの開催	7,501千円
(2) 東京オリンピック・パラリンピックに向けた首都圏共同プロモーション	5,449千円
(3) 東北連携によるタイプロモーション	22,278千円
(4) 欧米市場におけるメディア等を活用した東北への誘客促進	10,000千円
(5) 東北の食材を活用するカフェ・レストランの設置等による東北の魅力発信	23,063千円
(6) 東北の食の体験コンテンツ認定・発信	10,000千円
(7) 東北の美酒と食のツーリズム推進	15,000千円
(8) 復興ツーリズム推進	32,400千円
(9) 東北の観光案内所のネットワーク化による東北周遊促進	26,000千円
(10) 仙山観光交流促進	2,000千円
(11) その他東北連携推進	32,496千円

21

4. 現行施策と今後の取り組み

(3) 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略に基づく現行施策の例

① 日本一の体験プログラム創出事業

令和元年10月開設

- 市内での滞在時間を延ばし、宿泊につなげることを目的に実施
- 3年間で1000本のプログラムを発掘・創出し、日本一の体験都市を目指す
- 仙台・宮城の豊かな自然や祭り、歴史・文化、スポーツ、食など多彩な体験プログラムを掲載した専用ウェブサイトを開設



仙台旅先体験
コレクション

わたしの“したい”がきつとみつける
仙台的楽しい体験が満載の情報サイト
日本語サイト：<https://sendai-experience.com/ja/>
英語サイト：<https://sendai-experience.com/en/>



日本語版



英語版

22

4. 現行施策と今後の取り組み

- (3) 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略に基づく現行施策の例
④コンベンションや企業内会議・研修会等(MICE)の誘致

◇観光庁から選定されたグローバルMICE都市※として、MICE誘致のための各種取組を展開

※仙台市を含む12都市

■「米国電気電子学会国際磁気会議 (INTERMAG2023)」の誘致成功

- 磁気分野で世界最大規模の国際会議
- 令和5年5月開催予定
- 約50カ国から、1,500名が参加予定



- コンベンション(C)を中心に、企業内会議・研修会等(MI)もターゲットに加えた誘致セールスを実施。
- 会議開催をさらなる地域経済の活性化につなげるため、会議参加者の中心部商店街等への回遊促進・消費拡大に取り組む。

■会議参加者の中心部商店街への回遊促進・消費拡大

- (株)藤崎と連携し、仙台国際センターで東北・仙台のお土産・地酒を展示



■MICE

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれる**ビジネスイベントなどの総称**。

25

4. 現行施策と今後の取り組み

- (3) 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略に基づく現行施策の例
⑤二次交通の充実

■るーぶる仙台



▲るーぶる仙台特別運行「光のページェント号」

■定額タクシー

- 宮城県タクシー協会仙台地区総支部、仙台観光国際協会と連携協定締結(H30年12月)。
- 旅行者の移動手段の充実のため、定額タクシーの普及促進を目指す。
(仙台空港定額タクシーH31年2月開始)



▲タクシー協会との協定締結式

■MaaS(Mobility as a Service)

- 東日本旅客鉄道(株)、宮城県とともに観光型MaaSを検討

26

4. 現行施策と今後の取り組み

- (3) 仙台市交流人口ビジネス活性化戦略に基づく現行施策の例
 ⑥ 東北ゲートウェイ推進

■ 東北の食材を活用するカフェ・レストラン「Route 227s' Cafe(ルート227カフェ)」

令和元年8月オープン



▲定禅寺通に面して設置されたオープンデッキ

■ 東北の美酒と食に着目したツーリズム推進



▲今年度は10件のプログラムを造成予定

トピックス **世界的なメディアが“TOHOKU”に注目！**

世界有数の旅行ガイドブック「ロニーブラネット」の旅行先ランキング「Best in Travel2020」(地域編)で、東北地方が世界3位に選出。



世界的な雑誌「ナショナルジオグラフィック」の「Best Trip of 2020」で、東北地方が世界各地から選ばれた25カ所のうちの一つに。



27

4. 現行施策と今後の取り組み

- (4) 課題と今後の方向性

課 題	方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的に知名度のある観光地が少ない ● 旅行形態の変化(団体旅行→個人旅行、モノ消費→コト消費)に対応する体験型のプログラムが少ない ● 急増するインバウンド需要を十分に取り込めていない 	<p>国内外の旅行者を魅了する、体験型のコンテンツ創出が必要</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● GWや夏休みに観光客が増える一方、冬季に落ち込むなど、季節によって旅行者に変動があり、一年を通じた誘客が必要 ● 年間を通じて常時楽しめるコンテンツや「朝」「夜」「冬」のコンテンツが乏しい 	<p>宿泊施設や観光施設の稼働率を向上させるため、閑散期の対策が必要</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 季節によって旅行者に変動があり、事業者の稼働率が下がる時期がある ● 市内事業者等の交流人口ビジネスに関する新たな取組みを知る機会の不足 ● 観光人材の不足 	<p>市内の交流人口ビジネスに関わる事業者の育成・支援が必要</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 旅行形態の変化(団体旅行→個人旅行、モノ消費→コト消費)に対応する体験型のプログラムが少ない ● 急増するインバウンド需要を十分に取り込めていない ● 観光ニーズやメディアの多様化により、ターゲット層に情報を的確に届けられていない 	<p>ターゲットを明確にした効果的なプロモーションが必要</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 一部の観光地において、アクセスが不十分 ● 個人旅行化により、タクシー等の二次交通の需要が高まっている ● 外国語対応など、増加するインバウンドに対応できていない 	<p>国内外からの旅行者が安心・快適に過ごせる環境整備が必要</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 東北を訪れる旅行者は、国内・海外とも全国と比べて少ない ● 外国語対応など、増加するインバウンドに対応できていない ● 東北の観光地としての魅力が広く国内外に伝わっていない 	<p>東北が一体となった取り組みの強化が必要</p>

28

4. 現行施策と今後の取り組み

(5) 今後の取り組み①

施策	現在の主な事業	今後の方向性のイメージ例
観光資源の創出	<ul style="list-style-type: none"> 体験プログラム創出事業 交流人口ビジネス表彰制度 まつり等開催支援 サイクルツーリズム推進 インバウンド向けコンテンツ磨き上げ 大規模スポーツイベント誘致 新東北みやげコンテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 閑散期の魅力向上 ナイトタイムエコノミー推進 観光人材育成 等
受入環境維持・整備	<ul style="list-style-type: none"> 市内中心部環境整備(るーぶる仙台運営委託等) 西部地区環境整備(秋保里センター運営等) 仙台市観光情報センター運営 外国人観光客対応力向上セミナー SENDAI free Wi-Fi整備 案内誘導サイン整備 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人旅行者対応(多言語化、トイレ洋式化等) バリアフリー対応 二次交通の機能向上 等
国内プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏誘致セールス 修学旅行誘致 伊達武将隊を活用した観光客誘致 観光アンバサダーを活用した観光客誘致 観光ガイドブック制作 観光情報誌への情報掲載 せんだい・宮城フィルムコミッション事業 観光情報サイト「せんだい旅日和」運営 就航都市プロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルマーケティングの推進 観光目的以外の誘客(ビジネス、スポーツ観戦等) 西日本からの誘客 等

29

4. 現行施策と今後の取り組み

(5) 今後の取り組み②

施策	現在の主な事業	今後の方向性のイメージ例
インバウンド推進	<ul style="list-style-type: none"> タイや台湾などへの戦略的なプロモーション WEBおよびSNS等による情報発信 インフルエンサーやメディア等招請による情報発信 首都圏からの誘客促進 国・地域別観光パンフレット制作 海外インセンティブツアー誘致 仙台空港発着路線の維持拡大 アウトバウンドの推進 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルマーケティングの推進 関西圏からの誘客促進 ダイバーシティへの対応 等
MICE推進	<ul style="list-style-type: none"> コンベンション誘致 企業系会議等誘致 MICEサポートセンター運営 会議開催助成金 コンベンション参加者の回遊性向上 仙台国際センター運営 	<ul style="list-style-type: none"> ユニークベニュー開発・利用促進 MICE参加者の回遊性向上 MICEに対する市民の歓迎意識醸成 等
東北ゲートウェイ推進	<ul style="list-style-type: none"> 東北絆まつりの開催 東京オリパラに向けたプロモーション 東北連携によるタイプロモーション 東北の食材を活用したカフェ・レストラン設置 東北の観光案内所のネットワーク化 東北の美酒と食のツーリズム推進 復興ツーリズム推進 仙山観光交流促進 広域二次交通の整備及び情報のデジタル化支援 	<ul style="list-style-type: none"> 立体観光の推進 広域二次交通の機能向上 来仙観光客の県内・東北への送客 等

30

5. 仙台市の財政状況

31

5. 仙台市の財政状況

(1) 仙台市の財政状況

① 歳出の状況 (1/2)

現状と課題

- 仙台市の一般会計歳出予算は5,000～5,500億円で推移している。
- 義務的経費は増加し続けており、また一般会計に占める割合は平成29年度以降50%以上で推移している。

■ 仙台市の一般会計(歳出)の推移



32

5. 仙台市の財政状況

(1) 仙台市の財政状況 ② 歳出の状況 (2/2)

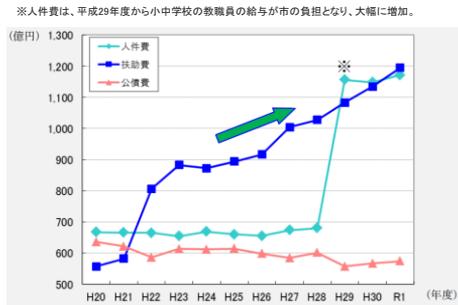
現状と課題

- 令和元年度予算における義務的経費の総額は2,942億円で、前年度から92億円増加している。
- 特に扶助費が年々増加し、令和元年度の扶助費は、前年度から60億円増加している。

■ 仙台市の性質別歳出



■ 仙台市の義務的経費の推移



出典：みんなの財政のミカタ 令和元年度予算版(仙台市)

33

5. 仙台市の財政状況

(1) 仙台市の財政状況 ③ 観光費の推移および財源

現状と課題

- 仙台市の観光費は平成28年度以降減少し、令和元年度は15.6億円となっている。
- 平成28年度に創設された東北観光復興対策交付金等の割合は、12~19%で推移しており、令和元年度は14%となっている。

■ 仙台市の観光費の推移



(単位:千円)	H27	H28	H29	H30	R1
東北観光復興対策交付金等	—	262,597	371,691	273,116	224,864
	0%	11.7%	18.8%	16.1%	14.4%
市債	149,000	542,300	89,100	139,900	68,900
	11.6%	24.1%	4.5%	8.2%	4.4%
一般財源等	1,132,379	1,443,890	1,514,386	1,283,969	1,266,314
	88.4%	64.2%	76.7%	75.7%	81.2%
観光費合計	1,281,379	2,248,787	1,975,177	1,696,985	1,560,078

34

5. 仙台市の財政状況

(1) 仙台市の財政状況

④ 中期財政見通し

現状

- (収入) 市税収入は堅調に推移する一方、地方交付税は市税収入等の推移と連動して減少する見通し。その他の財源については、普通建設事業の進捗などに連動して推移する見通し。
- (支出) 復興事業の進捗により減少する要素がある一方、社会保障費や、公共施設の長寿命化対策及び更新に係る経費が確実に増加していく見込み。
- (収支差) 収支差に対応する財源対策は限りがあるため、将来を見通した財政基盤の強化が重要。

今後の収入と支出(普通会計)の見通し		(単位: 億円)			
		令和元年度	2年度	3年度	4年度
収入	市 税	2,189	2,195	2,220	2,247
	地方交付税	213	149	126	121
	国・県支出金	1,168	1,182	1,172	1,196
	市 債	503	498	520	543
	その他	1,460	1,130	1,205	1,120
	合 計	5,533	5,164	5,243	5,227
支出	人 件 費	1,172	1,177	1,187	1,195
	扶 助 費	1,171	1,237	1,248	1,261
	公 債 費	598	595	621	628
	普通建設事業費	627	599	596	652
	その他	1,965	1,784	1,862	1,780
	合 計	5,533	5,392	5,514	5,516
収 支 差			△ 238	△ 271	△ 289

出典: みんなの財政のミカタ 令和元年度予算版(仙台市)

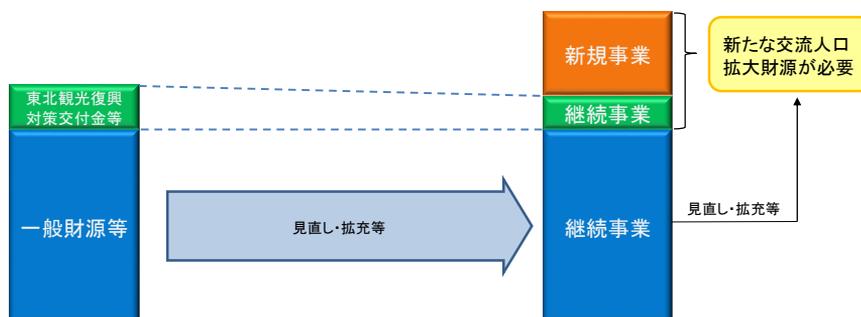
財政状況のまとめ

- 財政構造の硬化化が進行しているという現状も踏まえ、長期的な視点をより一層重視し、歳入歳出両面におけるあらゆる取組みを講じていくことが重要。
- こうした状況を踏まえると、交流人口拡大に関する新たな財政需要に適切に対応するためには、新たな安定的財源が必要となる。

35

5. 仙台市の財政状況

(2) 新たな財源の活用イメージ



新たな財源について

- 交流人口拡大に向けた今後の施策を実施するため、安定的な財源確保策を検討する必要がある。

36

6. 財源確保の事例

37

6. 財源確保の事例

(1)財源確保の手法①

種類	内容
地方税	<p>地方公共団体がその経費に充てるため、財力調達の目的をもって、その課税権に基づき賦課・徴収するもの。</p> <p>【普通税】その収入を一般経費の財源に充当する 【目的税】特定の費用のために課される税 【法定外税】地方公共団体の特殊事情を勘案して設けることが出来る税</p> <p>◆規模：対象者の設定により一定規模の確保が可能 ◆安定性・継続性：安定的・継続的な確保が可能 ◆受益と負担：受益者を広く設定し、負担を求めることが可能</p>
分担金	<p>地方公共団体が行う特定の事業に必要な費用に充てるため、特に利益を受ける者から、その受益の限度において徴収するもの。(例：土地改良事業分担金など)</p> <p>* 分担金と負担金の違いは、主に根拠法令の違い</p> <p>◆規模：受益者を個別に特定する必要があり、規模は限定的 ◆安定性・継続性：特定の事業に係るため安定的であるが、継続的な確保は難しい ◆受益と負担：受益者を個別に特定し、受益の範囲内で負担を求める必要がある</p>
負担金	<p>1. 法律に基づき、特別の利益関係等を有する者から、その事業に要する経費を受益等の程度に応じて徴収するもの。 2. 財政政策上その他の見地から、その事業に要する経費を定められた負担割合に応じて求めるもの。(例：下水道事業受益者負担金など)</p> <p>◆規模：受益者を個別に特定する必要があり、規模は限定的 ◆安定性・継続性：特定の事業に係るため安定的であるが、継続的な確保は難しい ◆受益と負担：受益者を個別に特定し、受益の範囲内で負担を求める必要がある</p>

38

6. 財源確保の事例

(1) 財源確保の手法②

種類	内容
使用料	<p>行政財産の目的外使用及び公の施設の利用に対し、その反対給付として徴収するもの。(例:市民会館の使用料など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆規模: 施設等利用者、役務提供先からの徴収となるため、規模は限定的 ◆安定性・継続性: 安定的・継続的な確保が可能 ◆受益と負担: 受益者を個別に特定し負担を求める必要がある
手数料	<p>特定の者に提供する役務に対し、その費用を償うため又は報償として徴収するもの。(例:住民票の発行手数料など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆規模: 施設等利用者、役務提供先からの徴収となるため、規模は限定的 ◆安定性・継続性: 安定的・継続的な確保が可能 ◆受益と負担: 受益者を個別に特定し負担を求める必要がある
寄附金	<p>地方公共団体が実施する一定の事業に必要な経費に充てるため、相当の給付を行うことなく、金銭又は特定の財産の給付を受けるもの。(例:ふるさと納税、協力金など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆規模: 対象者の設定により一定規模の確保が可能 ◆安定性・継続性: 善意や協力に基づくため、安定性や継続性の確保は難しい ◆受益と負担: 善意や協力によるため、受益者が必ずしも負担する必要はない

39

6. 財源確保の事例

(2) 他自治体における主な事例①

種類	自治体	名称	概要	収入(見込)額
地方税(法定外普通税)	熱海市	別荘等所有税	別荘等の延床面積1㎡につき650円	5.3億円 (R1予算)
地方税(法定外普通税)	太宰府市	歴史と文化の環境税	一時有料駐車場利用者の駐車行為1回につき ・二輪車: 50円 ・乗用車: 100円 ・マイクロバス: 300円 ・大型バス: 500円	0.9億円 (R1予算)
地方税(法定外目的税)	岐阜県	乗鞍環境保全税	乗鞍鶴ヶ池駐車場へ入り込む自動車を運転する者1回につき ・定員30人以上の観光バス: 3,000円 ・ " " 一般乗合用バス: 2,000円 ・定員11人以上29人以下: 1,500円 ・定員10人以下: 300円	0.1億円 (R1予算)
地方税(法定外目的税)	富士河口湖町	遊漁税	河口湖で遊漁行為を行う遊漁者1人1日につき200円	0.1億円 (R1予算)
寄附金	山梨県、静岡県	富士山保全協力金	五合目から先に立ち入る来訪者1人あたり基本1,000円(子どもや障がい者は協力いただける範囲の金額)	1.4億円 (平成30年度実績) 山梨県0.9億円 静岡県0.5億円

40

6. 財源確保の事例

(2) 他自治体における主な事例②

種類	自治体	名称	概要	収入(見込)額
地方税(法定外目的税)	東京都	宿泊税	ホテルまたは旅館への宿泊者1人1泊につき ・宿泊料金10,000円以上15,000円未満 :100円 ・宿泊料金15,000円以上 :200円	28億円 (R1予算)
地方税(法定外目的税)	金沢市	宿泊税	宿泊者1人1泊につき ・宿泊料金20,000円未満 :200円 ・宿泊料金20,000円以上 :500円	6.6億円 (R1予算)
地方税(法定外目的税)	京都市	宿泊税	宿泊者1人1泊につき ・20,000円未満 :200円 ・20,000円以上50,000円未満 :500円 ・50,000円以上 :1,000円	41.6億円 (R1予算)
地方税(法定外目的税)	大阪府	宿泊税	宿泊者1人1泊につき ・7,000円以上15,000円未満 :100円 ・15,000円以上20,000円未満 :200円 ・20,000円以上 :300円	18.7億円 (R1予算)
地方税(法定外目的税)	福岡県、 福岡市、 北九州市	宿泊税	宿泊者1人1泊につき200円(内訳:県税200円。 福岡市、北九州市においては、市税150円、県税 50円(計200円)。ただし、福岡市において宿泊料 金2万円以上の場合は、市税450円、県税50円 (計500円))	36.2億円 (見込) 福岡県15億円 福岡市18.2億円 北九州市3億円